



撮影落合英俊

指揮：新田ユリ

国立音楽大学卒業後、桐朋学園ディプロマコース指揮科に入学。指揮を尾高忠明、小澤征爾、秋山和慶、小松一彦の各氏に師事。1990年ブザンソン国際青年指揮者コンクールファイナリスト、翌1991年、東京国際音楽コンクール「指揮」第2位受賞。東京交響楽団を指揮してデビュー後、国内オーケストラへ客演を続ける。横浜シティオペラ、大田区民オペラ協議会にてモーツァルトの5大オペラ、夕鶴などを指揮。東京佼成ウインドオーケストラ、Shion（大阪市音楽団）、シエナ・ウインド・オーケストラ、東京吹奏楽団など吹奏楽団への客演も多い。

2000年～2001年、文化庁芸術家在外研修生としてフィンランド・ラハティ交響楽団にて研修。オスモ・ヴァンスカ氏のもとアシスタントを務める。以後フィンランドと日本を拠点として、クオピオ交響楽団、ミッケリ市管弦楽団、ヨエンスー市管弦楽団、クリスチャンサン交響楽団、フィンランド海軍吹奏楽団、フィンランド国防軍吹奏楽団にも客演。

2005年～2007年、オウルンサロ音楽祭（フィンランド）に招聘、ラ・テンペスタと共演。2006年、2013年にはリエクサ・プラス・ウィークへ招聘客演。2005年フィンランド日本友好協会よりラムステッド基金奨学金を授与される。2006年、2007年には東京新聞フォーラム「指揮者が見たフィンランド」にて講演と演奏のプロデュース・指揮を務めた。2008年6月、2010年7月にNHK「名曲探偵アマデウス」に出演。シベリウスの「フィンランディア」「交響曲第2番」を特集した番組の解説を務める。

2015年1月より一般社団法人愛知室内オーケストラ常任指揮者に就任。

日本シベリウス協会会長。日本グリーグ協会会員、日本コミタス協会理事。国立音楽大学、桐朋学園大学、相愛大学、同志社女子大学などで後進の指導に当たっている。著書に「ボホヨラの調べ」（五月書房）。

公式ウェブサイト「森と湖の詩」<http://www.yuri-muusikko.com>



バリトン：大久保光哉

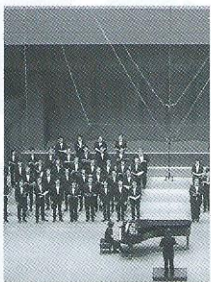
北海道出身。慶應義塾大学法学部卒業。東京芸術大学大学院博士課程および文化庁オペラ研修所第10期修了。文化庁在外派遣研修員としてスウェーデンに留学。音楽博士。白糠町文化奨励賞受賞。二期会会員。

さまざまなプロダクションのオペラに出演している。新国立劇場「建・TAKERU」「スペース・トゥーランドット」「沈黙」「修禅寺物語」「ラ・ボエム」「こうもり」「アンドレア・シェニエ」や同劇場委嘱作品「夜叉ヶ池」、二期会では「ナクソスのアリアドネ」、東京室内歌劇場「井筒の女」、東京オペラ・プロデュース「ロビンソン・クルーソー」「修道院での結婚」、二期会・読売日本交響楽団・日生劇場共催公演「リア」（日本初演）のグロスター伯、横浜みなとみらいホール主催の沼尻竜典作曲「竹取物語」などオペラ役者として多くの話題作に出演している。

また、東京フィルハーモニー交響楽団「はるかなる響き」「ファウスト博士」「叙情交響曲」「アルファとオメガ」「パール・ギュント」、東京交響楽団「カーチャ・カバノヴァー」「死者の家から」「裏切られた海」、読売日本交響楽団「椿姫」「ヴォイツェック」、創立50周年記念定期公演「バリトンとオーケストラのための般若心経」（ハンス・ツェンダー作曲、世界初演）や、オーケストラ・アンサンブル金沢、仙台フィルハーモニー管弦楽団、札幌交響楽団など主要オーケストラと共演。

ほかに東京国際フォーラム開館記念「日中ガラコンサート」、森公美子のおもしろオペラ館、NHK「FMリサイタル」「名曲リサイタル」「BSクラシック倶楽部」、読売テレビ「深夜の音楽会」などに出演。

わが国における北欧歌曲の第一人者として日本フィルハーモニー交響楽団とのシベリウス歌曲（オーケストラ版）での共演、東京新聞主催のシベリウス「クッレルヴォ」、スウェーデン・レークサンド音楽祭でのスウェーデン歌曲の演奏やオール北欧歌曲でのリサイタル、2015年にはシベリウス生誕150年記念と題し横浜と東京でリサイタルを開催した。さらに、神奈川フィル合唱団音楽監督などの合唱指揮、ほかにオペラの演出や演奏会の企画・構成をこなすなどマルチな活動を展開している。



男声合唱：合唱団お江戸コラリアーズ

1998年結成したアマチュアの男声合唱団。音楽監督である伊東恵司氏（なにわコラリアーズ等指揮者）の「関西がナニワやから、東京はお江戸でしょ」という一言から「お江戸コラリアーズ」と名乗る。男声合唱の新たな響きとスタイルの獲得をめざし、「全員が主役」をコンセプトに精力的に活動中。

これまで全日本合唱コンクールにて金賞および文部科学大臣賞、日本放送協会賞などを受賞。信長貴富氏に「宮崎駿アニメ映画音楽集」「こころようたえ」などを、松下耕氏に男声版「静かな雨の夜に」を委嘱。近年は福島県郡山市や宮城県仙台市、岩手県一関市、盛岡市、長野県岡谷市、神奈川県厚木市にて演奏の機会を得、活動を拡大。

管弦楽：アイノラ交響楽団

アイノラ交響楽団は、北欧フィンランドを代表する作曲家ジャン・シベリウスの音楽をこよなく愛するアマチュア演奏家たちによって、2000年12月に設立されました。アイノラとはフィンランド語で「アイノのいる場所」という意味。シベリウスは、最愛の夫人「アイノ」の名にちなみ、ヘルシンキ近郊のヤルヴェンパーという街に構えた自邸のことをそう呼んでいました。彼は自然豊かなアイノラの地を終生愛し、そこで数々の傑作を創り上げています。シベリウスファンにとっての聖地とも呼べる「アイノラ」の名を戴いたこのオーケストラでは、7つの交響曲はじめ数々の交響詩・音詩を含む管弦楽作品全ての演奏を目標としています。演奏会では毎回コンセプトのあるプログラムづくりを心がけ、日本では演奏される機会の少ないシベリウス以外のフィンランド人作曲家やスウェーデン、ノルウェー、デンマークやバルト諸国の作曲家の作品も積極的に取り上げています。正指揮者にはフィンランドと日本を拠点に活躍を続ける新田ユリ氏を迎え、その指導の下で、透明感のある音色や、北欧音楽特有の「語法」の表現を大切にしながら、年1度の定期演奏会に向けて練習を重ねています。

杉並公会堂

東京都杉並区上荻1丁目23-15 TEL 03-3220-0401

